

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 92
2023.12TOPICS
1

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択 ～地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学:岡山大学の実現を 加速とともに世界に誇れる我が国の研究大学の山脈を築く～

岡山大学ビジョン3.0・岡山大学長期ビジョン2050



本学は12月22日、文部科学省の令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」(実施主体：日本学術振興会)に採択されました。

本事業は、我が国全体の研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくために、大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援と並行して行うものです。我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的に、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図ります。今回69大学(国立39大学、公立7大学、私立23大学)からの申請があり、12大学(国立9大学、公立1大学、私立2大学)が採択されました。

本学は、岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向け、本学の事業構想である「研究力強化・イノベーション創出戦略」を強力に推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12723.html

TOPICS
2

模擬国連NMUN-Germany Erfurt 2023に岡山大学生が出演し、 Honorable Mention Awardを受賞！

11月19～25日にドイツのエアフルト大学で開催された模擬国連NMUN-Germany Erfurt 2023に、本学から7人の学生が参加しました。アルゼンチンとイタリアの代表として国際政策について討論およびスピーチを行い、決議案を作成した本学チームは、Honorable Mention Awardを受賞しました。

模擬国連とは、参加者が自国とは異なる国の代表として大使の役割を担い、実際の国連の会議を模した形式で行う教育活動で、本学の学生たちも、世界各国から集まった他の代表団とともに堂々と討論を交わしました。参加した山下友大さん(教育学部2年)は「NMUNにおいて、自分自身が外交官役として他国と議論や交渉を行い、国連決議という合意に向かって取り組むことは、普段の学生生活ではできない貴重な経験になりました。英語力、コミュニケーション力、行動力、国際理解力など自分のもてる力を最大限に発揮できた瞬間はやりがいがありました。これからNMUNでの経験を生かして、日本をリードしていくことのできる人材になりたいです」と熱く語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12704.html



Pick up!

大谷翔平選手からグローブの贈り物が届きました！



12月25日、教育学部附属小学校と附属特別支援学校小学部に大谷翔平選手からニューバランス社製の野球グローブが届きました。

ちょうど12月25日はクリスマス。附属学校園は冬休みに入っているため、児童の喜ぶ顔を見るのは少し先になりますが、附属小学校・小林紀彦副校長に「大谷選手のグローブはもう届いたの？いつ届くの？」と、毎日尋ねて心待ちにしていた児童たちは、きっと新学期を楽しみに通学してくると思います。

附属小学校と附属特別支援学校では、新学期の始業式に、前田潔校長、竹本俊哉校長から待望のグローブが届いたことを報告し、各教室でグローブをお披露目する予定です。児童たちがどのような表情で喜び、感動するか今から楽しみです。

大谷選手、素晴らしいプレゼントを本当にありがとうございます。新天地ドジャースでの益々のご活躍を楽しみにしています！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12726.html



TOPICS

3

MVA2023アウトリーチイベント「月に杜を創ろう～木と野菜から生まれる自給自足エコシステム～」を開催

12月9日にMoon Village Associationが主催する国際会議「7th Global Moon Village Workshop & Symposium」に連動して本学が共催するアウトリーチイベント「月に杜を創ろう～木と野菜から生まれる自給自足エコシステム～」が開催され、岡山県内外から約200人が来場しました。本イベントは月や火星など宇宙での自給自足による持続的エコシステムの構築に向けた多彩な視座の融合と共創を重要なテーマとして、中高生を含む一般の方と人類の夢や希望を広く共有することを目的として開催されました。

当日は中村栄三特任教授の最先端の研究成果である小惑星リュウグウの試料を基に合成された土で栽培された野菜を展示しました。この野菜は、12月7日に倉敷市の大原美術館で開催された「7th Global Moon Village Workshop & Symposium」のバンケットで、参加者にサラダとして世界で初めて振る舞われたものです。そのほかにもソビエト連邦の無人月探査機ルナ16号、20号、24号により採取された「月の砂」など、宇宙に関する最先端の研究成果を目で見て、触って学ぶことができる機会となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12718.html



TOPICS

4

綱田錬助教、荒川仁太助教に岡山大学「研究准教授」の称号を付与

学術研究院環境生命自然科学学域の綱田錬助教、荒川仁太助教を研究准教授として選任し、12月1日に研究准教授の称号付与式を開催しました。

綱田研究准教授は、多様な次世代の高性能モータについて研究しており、その中の一つであるアキシアルギャップモータの低コスト化、高効率化、小型化を目指しています。アキシアルギャップモータは、従来のラジアルギャップモータと比較して、扁平な形状でも高いトルクが実現できるモータであり、様々な産業分野での活用が期待されています。

荒川研究准教授は、金属材料のショットピーニングによる耐久性向上や金属材料のき裂発生・進展の予測(評価)に取り組んでいます。小さな金属球体を材料表面に衝突させて表面を硬化させる技術で、これにより金属疲労によるき裂の発生が抑えられ、耐久性が増します。き裂発生・進展の予測(評価)では、金属材料の結晶の形状や粒径から、き裂の発生・進展をシミュレーションし、そのメカニズムの解明を目指しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12700.html

PRESS
RELEASE

次世代太陽電池・ペロブスカイト太陽電池の欠点を補完する画期的な添加材“ベンゾフェノン”を発見！

～性能と耐環境性の向上により、再生可能エネルギーの発展に貢献～

岡山大学大学院環境生命自然科学研究科のHytham Elbohy外国人客員研究員、学術研究院環境生命自然科学学域(工)の鈴木弘朗助教、西川亘助教、林靖彦教授らは、Southern University of Science and Technology(中国)のAung Ko Ko Kyaw准教授と共同で、次世代太陽電池として期待されているペロブスカイト太陽電池の性能と安定性を向上する添加剤分子として“ベンゾフェノン”を発見しました。

ペロブスカイト太陽電池は、従来のシリコン太陽電池に比べて、作製工程が容易で、フィルム状の柔軟な太陽用電池が作製でき、発電効率が同程度であることから、安価で様々な場所に活用できる太陽電池として期待されています。しかし、ペロブスカイト材料の環境安定性が低いことが大きな課題でした。今回の研究では、ベンゾフェノンという分子を添加剤として用いることで、ペロブスカイト太陽電池の性能と安定性を向上することに成功しました。高性能・高安定性のペロブスカイト太陽電池は、今後エネルギーハーベスティングやInternet of Everything (IoE)の発展に大きく寄与します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1177.html

